

2015年度 第1四半期 決算説明会

コカ・コーライーストジャパン株式会社

代表取締役社長 CEO カリン・ドラガン
代表取締役副社長 CFO マイケル・クームス
2015年5月12日

Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパン株式会社

www.ccej.co.jp



将来の業績に関する見通しについて

本資料に記載の事業計画、業績予想、および事業戦略は、本資料配布時点での情報を考慮した上でのコカ・コーライーストジャパン株式会社（以下当社）経営陣の仮定および判断に基づくものです。これらの予想は、以下のリスクや不確定要因により、実際の業績と大きく異なる可能性があることに留意してください。

なお、リスクおよび不確定要因は以下のものに限られるものではありません。当社の有価証券報告書等にも記載されていますので、ご参照ください。

- 市場における価格競争の激化
- 当社の事業を取り巻く経済動向の変化
- 資本市場における大きな変動
- 為替レートの変動、特に日本円と米ドルの為替レートの変動
- 原材料費の高騰
- 課税環境の変化
- 経営陣が計画した水準・時期に、生産効率の向上や設備投資を実施する当社の能力
- 効果的に市場投入かつ流通させる当社の能力
- 上記以外の不確定要因

本資料の情報は、情報の提供を目的としており、当社証券への投資勧誘を目的するものではありません。

また、当社は新しい情報あるいは将来のイベントにより、本資料の内容を更新する義務を負いません。皆様におかれましては、当社発行の証券に投資する前に、ご自身の独立した調査に基づいて判断をお願いいたします。



Introduction - イン트로ダクション

- 概要と業績のポイント
- 変革に向けて

第1四半期業績

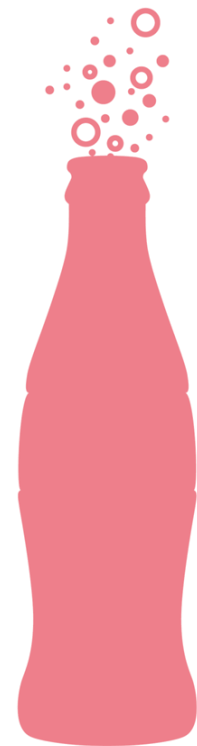
- 市場シェア、販売数量、業績

仙台コカ・コーラボトリング株式会社の事業統合

- 通期事業計画の変更
- 成長に向けたOne+ロードマップ

第2四半期のマイルストーン

- マーケティング計画、主要マイルストーン



- ✓ 比較可能ベースの営業損失は、会計方針の変更等の影響を含め、前年比約36億円改善
- ✓ 価格およびミックスの改善により、売上高と販売数量の対前年比は同率に
- ✓ 6四半期連続で数量・金額シェアを拡大。金額シェアに注力
- ✓ お茶、水、コーヒーは新製品が引き続き成長を牽引
- ✓ シナジー効果を実現するも、前年の製造ラインの立ち上げに係る影響や過剰在庫の影響が若干残り、効果が一部相殺される

2015年度 第1四半期業績

Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパン株式会社

www.ccej.co.jp



100 YEARS OF THE

COCA-COLA BOTTLE

第1四半期における主な変革

Coca-Cola East Japan

- ✓ **迅速な組織変革と統合を継続：**
 - 仙台コカ・コーラボトリング株式会社を事業統合
 - 当社製品および他社製品を取り扱う自動販売機（ミックス自販機）オペレーター子会社8社を統合したFVイーストジャパン株式会社の発足
- ✓ **ERPシステムのフェーズ1稼働開始。“ハイパーケア”サポート体制で運用対応中。移行期の製品供給の安定化に注力**
- ✓ **適切な価格取引条件の適用を推進し、価格およびミックスを改善**
- ✓ **間接購買機能をコカ・コーラビジネスサービス株式会社(CCBSC)に移管**
- ✓ **リーダーシップチームの進化**
- ✓ **営業部門の変革事例が、全世界のコカ・コーラシステムの中での優良事例のファイナリストとして上位3件の1つに選定される**

第1四半期のマーケティング活動と新製品

Q1 「コカ・コーラ」 ボトル100周年  コカ・コーラ ライフ シュウェッps シトラス



Q1 ジョージア エメラルドマウンテンブレンド アルミ缶化推進 新製品導入



Q1 い・ろ・は・す リニューアル トクホ 「ペコらくボトル」 日本の烏龍茶 つむぎ アクエリアス リニューアル



Q1 市場シェア成長*

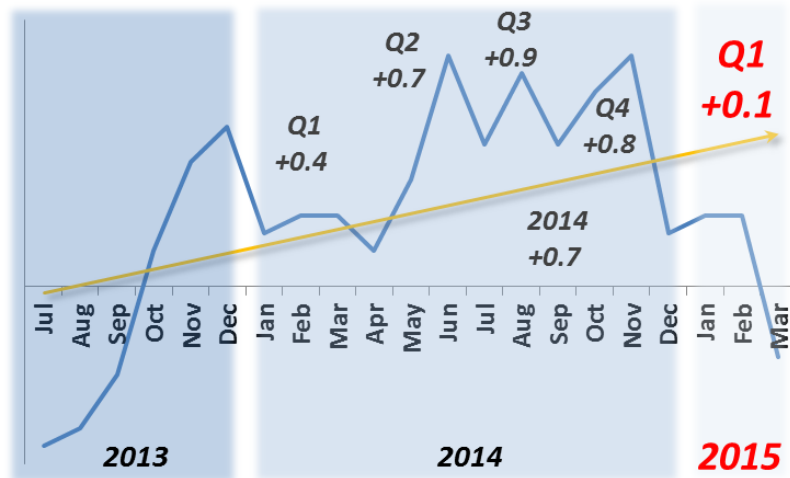
数量	+0.1
金額	+0.2

金額シェアが数量シェアを上回って拡大

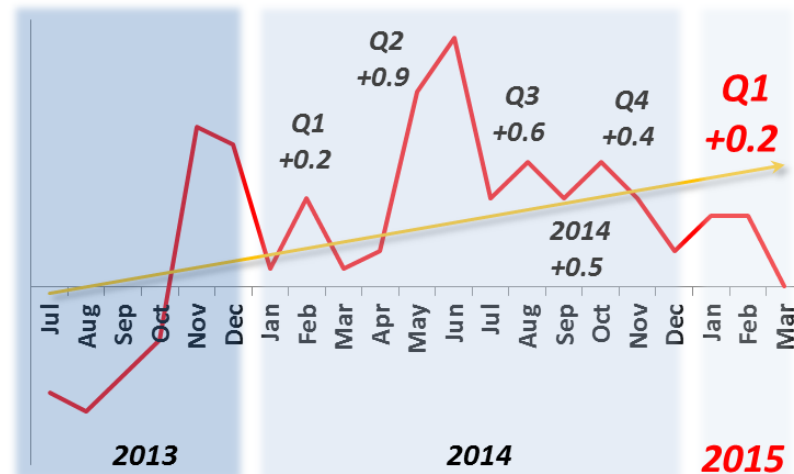
対前年比シェア成長の縮小は想定どおり

コーラ、お茶、スポーツ、水カテゴリーでシェア拡大

数量シェア対前年比増減



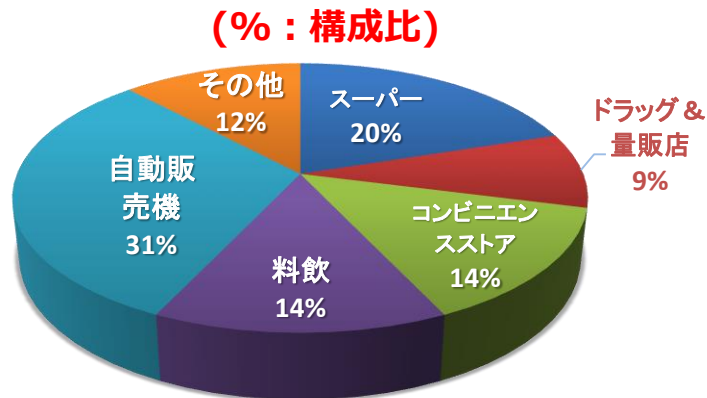
金額シェア対前年比増減



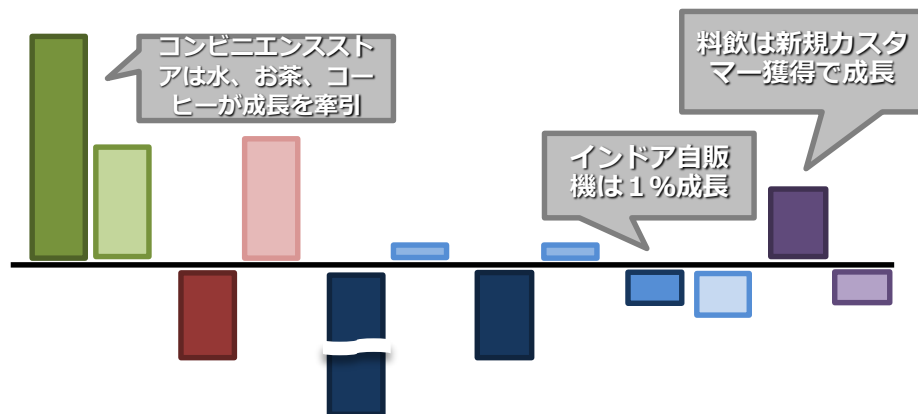
*出典：インテージ OTC チャネル (清涼飲料水)

販売チャネル別の状況

Q1 2015 チャンネル別販売数量



チャンネル別販売数量増減



販売数量 前年同期比 $\Delta 1.5\%$

2014年度第1四半期は増税前の駆け込み需要で+3.4%

2014年度第1四半期の成長率

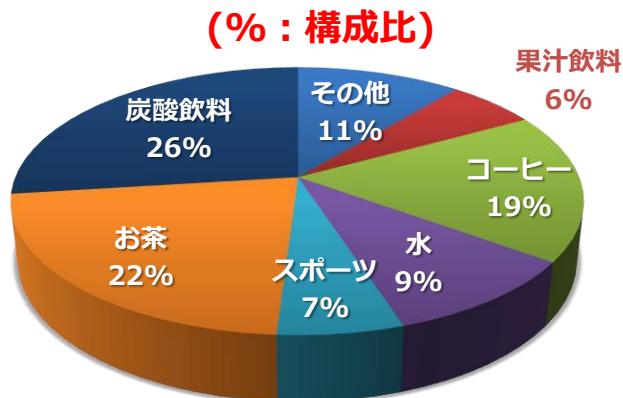
- コンビニエンスストア : $\Delta 5\%$
- ドラッグ&量販店 : $+14\%$
- 全国チェーンスーパー : $+16\%$
- 自動販売機、料飲 : 0%

対前年比	コンビニエンスストア	ドラッグ&量販店	全国チェーンスーパー	地域チェーンスーパー	自動販売機	料飲
Q1 2015	+14%	$\Delta 5\%$	$\Delta 15\%$	$\Delta 5\%$	$\Delta 2\%$	+4%
2014年通期	+7%	+8%	+1%	+1%	$\Delta 3\%$	$\Delta 2\%$

*BAPC: Bottler Actual Physical Cases/ボトラー社実箱数

カテゴリー別の状況

Q1 2015 カテゴリー別販売数量



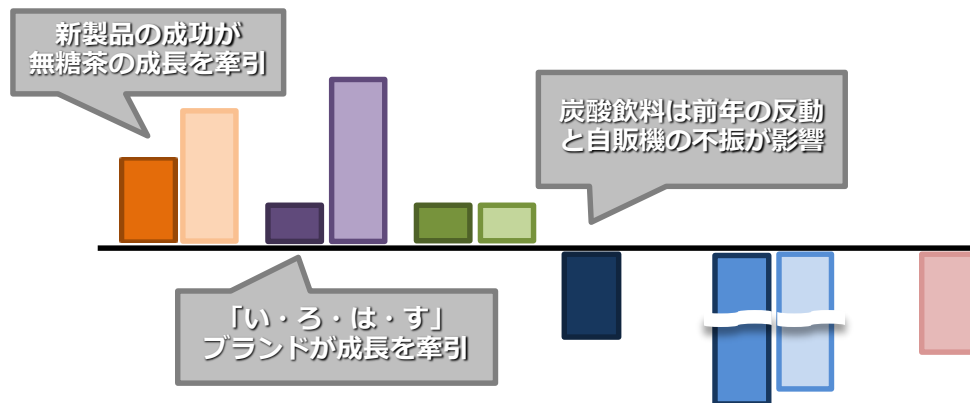
販売数量 前年同期比 $\Delta 1.5\%$

2014年度第1四半期は増税前の駆け込み需要で+3.4%

2014年度第1四半期の成長率

- ・ 無糖茶 : +10%
- ・ 水 : +9%
- ・ コーヒー : $\Delta 2\%$
- ・ 炭酸飲料 : +4%
- ・ スポーツ : +10%

カテゴリー別販売数量増減



対前年比	無糖茶	水	コーヒー	炭酸飲料	スポーツ	果汁飲料
Q1 2015	+5%	+2%	+2%	$\Delta 5\%$	$\Delta 16\%$	0%
2014年 通期	+8%	+10%	+2%	0%	$\Delta 9\%$	$\Delta 6\%$

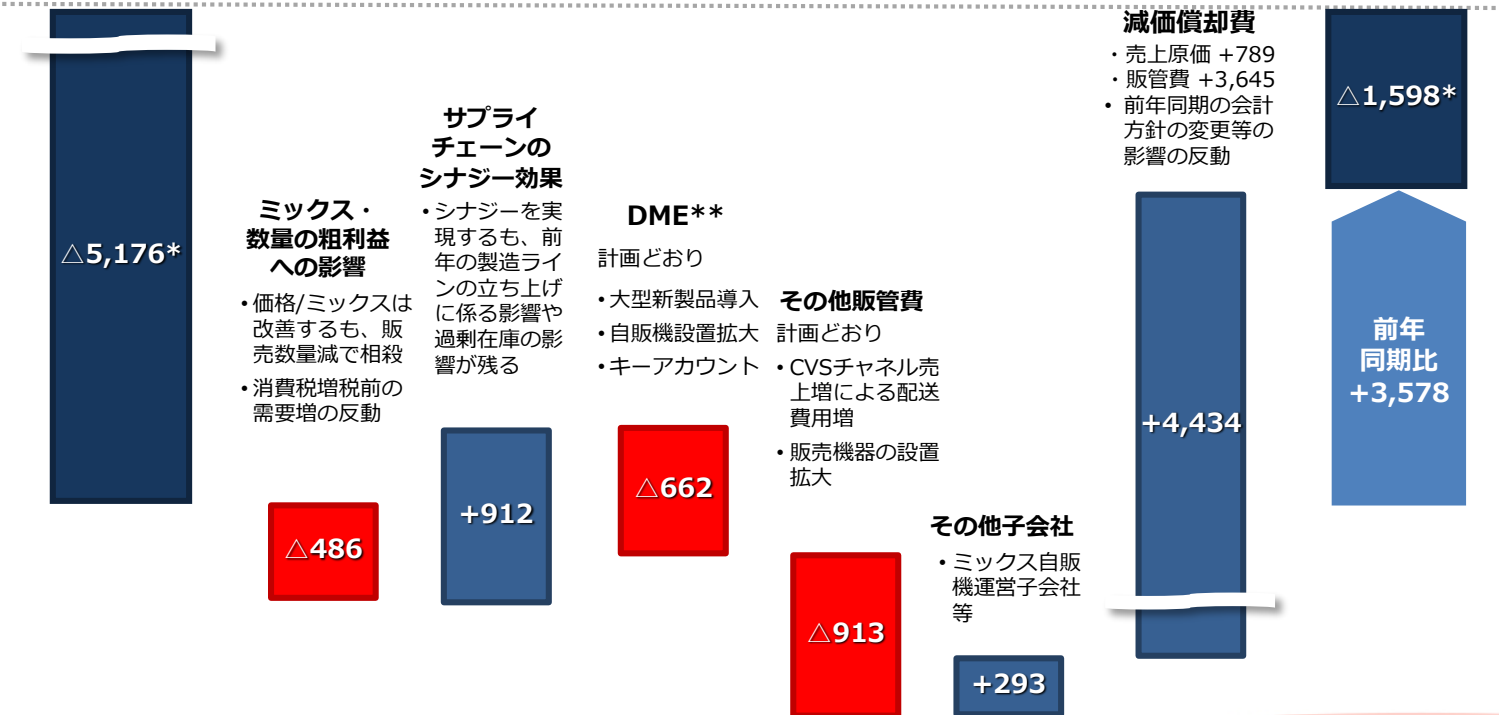
*BAPC: Bottler Actual Physical Cases/ボトラー社実箱数

第1四半期営業利益 増減分析

Q1 2014
比較可能ベース
営業利益

Q1 2015
比較可能ベース
営業利益

単位：百万円



*販管費に含まれている一時発生項目（2014年:408百万円、2015年:341百万円）調整後。

**Direct Marketing Expenses：広告宣伝費等。詳細は資料末尾用語集を参照下さい。

2015年度 第1四半期 業績概要

Coca-Cola East Japan

Q1 2015 財務報告ベース実績 (単位：百万円)		Q1 2015 一時発生 項目	Q1 2015 比較可能 ベース	Q1 2014 比較可能 ベース	前年同期比	
					差異	%
販売数量 (BAPC, 千ケース)	59,010	-	59,010	59,884	△874	△1.5
売上高	110,220	-	110,220	111,915	△1,695	△1.5
売上原価	58,846	-	58,846	61,552	△2,706	△4.4
売上総利益	51,374	-	51,374	50,362	1,012	+2.0
販管費	53,313	△341	52,972	55,539*	△2,567	△4.6
営業利益	△1,939	+341	△1,598	△5,176	3,578	-
税引前四半期純利益	△2,674	+1,031	△1,643	△5,121	3,478	-
四半期純利益	△1,543	+663	△880	△3,977	3,098	-

*2014年度第1四半期の一時発生項目408百万円の調整を含む

※2014年度第1四半期の業績には有形固定資産の残存価額を備忘価額に変更し、残存価額を備忘価額まで償却したことによる影響額が売上原価に805百万円、販管費に3,850百万円含まれています。

※集計方法の標準化を行ったため、2014年の販売数量実績は新しい集計方法による数字に変更しております。なお、この変更については2014年度決算発表時にもご案内しております。

仙台コカ・コーラ ボトリング株式会社の 事業統合

Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパン株式会社

www.ccej.co.jp



100 YEARS OF THE

COCA-COLA BOTTLE

仙台コカ・コーラボトリングの事業統合 *Coca-Cola East Japan*

- 2015年4月1日付で仙台コカ・コーラボトリングをCCEJの南東北ディビジョンとして事業統合
- 2016年にシステム、法人等の統合を完了予定
- 当期営業利益への寄与：2億円（第2～第4四半期）
- 2017年度末までの累計シナジー効果は15～20億円程度を見込む



事業統合に伴う通期業績予想の変更

2015年通期 期初予想（比較可能ベース） （単位：百万円）	
販売数量* （BAPC, 千ケース）	287,763
売上高	535,700
売上総利益	256,100
営業利益	15,600
税引前当期純利益	15,700
当期純利益	9,600

営業利益率
2.9%

仙台 CCBC （Q2～Q4）
21,020
36,200
14,400
200
100
**300

2015年通期 変更後予想 （比較可能ベース）
308,783
571,900
270,500
15,800
15,800
9,900

営業利益率
2.8%

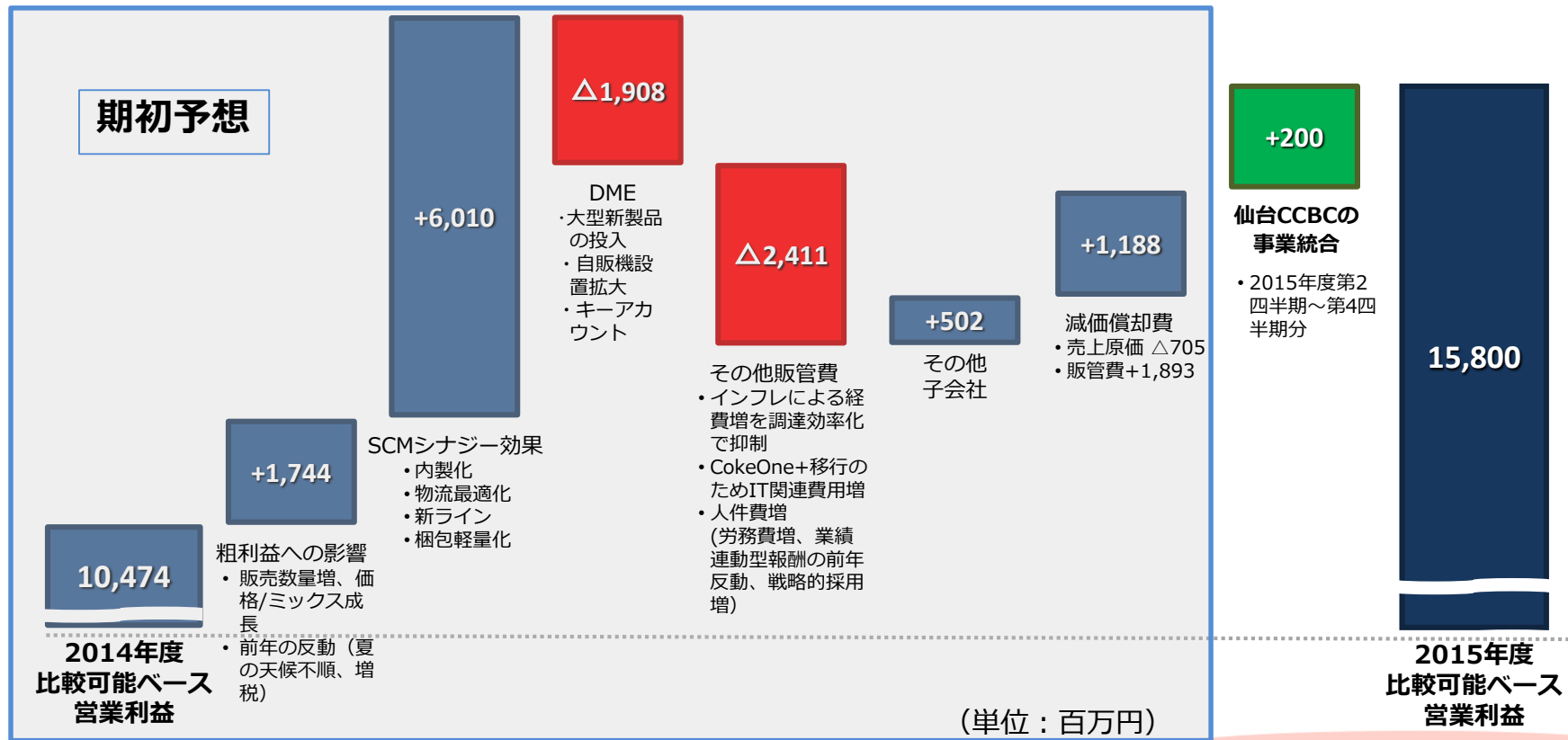
2014年通期 比較可能ベース 実績	前年比	
	差異	%
281,586	27,197	+10
523,299	48,601	+9
239,336	31,164	+13
10,474	5,326	+51
10,643	5,157	+49
5,975	3,925	+66

営業利益率
2.0%

*当社と仙台社で販売数量の換算方法に若干の相違があり、当社の方法への統一作業を行っております。このため、今後の業績発表で公表される販売数量実績は上記と異なる可能性があります。また、集計方法の標準化を行ったため、2014年の販売数量実績は新しい集計方法による数字に変更しております。なお、この変更については2014年度決算発表時にもご案内しております。

** 税制改正にともなう法人税額等の変更も含む。

通期営業利益予想の変更



成長に向けたOne+ロードマップ

Coca-Cola East Japan

2015:ロードマップの施策は継続

- ・ 変革のペースは変えない
- ・ 2015～2016年は結果を出すことに注力

2018-東京オリン
ピック以降

2012-2014

Forming & Storming

新しいビジネスモデルを
明確化し、展開する

スピード感を
持って250超の
統合プロジェク
トを推進

成長機会と
コストシナジ
ーの特定

2015-2016

Norming

新しいビジネス
モデルの質を高
め、最適化する

業績を残しながら
ビジネスプロセスを
最適化し、ERP
システムを導入

2016-2017

Performing

グローバル
ボトラーの
水準に近づける

成長やコスト
シナジーを加速
させるため、
競争優位性のある
新たな手法を確立

Accelerating

ワールドクラスの
ボトラー水準に
到達し、
それを上回る

世界で通用する
ワールドクラスの
日本のボトラーへ



TOKYO 2020



2015年度 第2四半期 マイルストーン

Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパン株式会社

www.ccej.co.jp



第2四半期：マーケティングプラン

消費者との結びつきを強化

Coca-Cola East Japan

Q2

「コカ・コーラ」ボトル100周年



コカ・コーラ ライフ

新ウェブサイト/工場見学プログラム



「コカ・コーラ」
スリムボトル
（アルミ製コンツァーボトル）
発表

Share-a-Coke



エリア限定 ボトルも！
みんなと、いっしょに飲もう。



コカ・コーライースターションでは、
多くの異なるさまざまなコカ・コーラを
もっと知っていただくために、
無料で工場見学を開催しています。

▶見学できる工場

Q2

カスタマー限定製品

ジョージア ヨーロピアン リニューアル

ジョージア
プライベートリザーブ



ジョージア
K's BREAK

ジョージア
クラフトマン



期間限定カフェ
「コーヒーハウス
ヨーロピアン」
表参道にオープン

また一步、理想のおいしさに近づきました。
ジョージア ヨーロピアン



Q2

い・ろ・は・す

トクホ

ペコらくボトル

日本の烏龍茶 つむぎ

一(はじめ) 緑茶



い・ろ・は・す
アロエ

い・ろ・は・す
とまと



特定保健用食品
からだすこやか茶.W



1L PET
パッケージ展開



つぶし
やすい!
注ぎ
やすい!
ペコらくボトル 誕生!



日本の烏龍茶



国産茶葉
100%



カスタマー
限定製品

コカ・コーライースターション株式会社

- ✓ **新しいERPシステムの安定運用と活用、新システムへの完全移行による製品の安定供給体制の確立**
- ✓ **130以上の営業拠点にRTMの導入を完了**
- ✓ **仙台コカ・コーラボトリング（南東北ディビジョン）およびFVイーストジャパンのオペレーション統合**
- ✓ **適切な価格取引条件と販促活動**

APPENDIX

Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパン株式会社

www.ccej.co.jp



100 YEARS OF THE

COCA-COLA BOTTLE

コカ・コーラビジネスを成長させる強固なパートナーシップ

日本のコカ・コーラシステムは、原液/飲料ベース（コーヒー豆、茶葉、果汁等）の供給と製品の企画開発や広告等のマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社(CCJC)と、製品の製造・販売を行うボトラー社や関連会社などで構成されています。

CCJCは、フランチャイズオーナーとして、ボトラー各社に原液/飲料ベースを供給するほか、日本市場のトレンドの把握および消費者・購買者の分析を通じて製品開発やマーケティング戦略の策定を行い、その実行をリードしています。

CCEJをはじめとするボトラー各社は、フランチャイジーとして、製品製造をはじめとして物流・輸送、販売活動を行っています。生産の効率化や徹底した消費者志向、市場への迅速な対応や顧客サービスの強化、厳格な品質管理など、コカ・コーラシステムの全体最適を図ることによって、コカ・コーラビジネスのさらなる成長を目指して協働しています。



日本コカ・コーラ(株)

- ブランド
- イノベーション
- グローバルな視点
- 消費者志向
- 卓越した洞察力

コカ・コーライーストジャパン(株)

- サプライチェーン
- コストの最適化
- エリアに精通
- カスタマー志向
- 世界に誇れる実行力

その他コカ・コーラシステム関連企業の概要

株式会社コカ・コーラ東京研究開発センター (CCTR&D)	日本のニーズに即した製品開発・技術サポート。ザ コカ・コーラカンパニー(TCCC)の100%子会社。
コカ・コーラビジネスサービス株式会社 (CCBSC)	原材料・資材等の共同調達、ビジネスコンサルティング、情報システムの開発・保守運用。TCCCおよび全ボトラー社の出資により設立。
コカ・コーラカスタマーマーケティング株式会社 (CCMC)	全国規模の大手流通チェーンおよびフードサービスチェーンに対する商談窓口。CCJCおよび全ボトラー社の出資により設立。
株式会社エフ・ヴィ・コーポレーション (FVC)	自動販売機事業における広域法人への営業およびコカ・コーラ製品以外の商品の取扱。CCJCおよび全ボトラー社の出資により設立。

CDE	Cold Drink Equipment の略。自販機、クーラー、ディスペンサーなどの販売機器全般を指す。
クーラー	小売店や飲食店の店内・レジ前などに設置するブランドロゴの入った冷蔵・保温機器。商品を適温（コールド、ホット）で提供し主にIC需要を喚起する。
DME	販促に関わる費用、 Direct Marketing Expenses の略。損益計算書上、販管費の販売手数料の一部ならびに広告宣伝費及び販促費に計上される。
FC（将来消費）	Future Consumption の略。ICとは逆に家庭等での将来の飲用を目的として購入される商品（例、1リットル以上のペットボトルや小型パッケージを複数本セットにしたマルチパック等）やFC需要の多いチャネル（例、スーパーマーケット、ドラッグストア、ディスカウンター等）を指す。
HORECA	ホテル(<u>H</u> otel)、レストラン(<u>R</u> estaurant)、カフェテリア(<u>C</u> afeteria)の略。料飲店チャネル。
IC（即時消費）	Immediate Consumption の略。購入後、即飲用されることを目的として、適温（コールド、ホット）で提供する商品（例、缶や小型ペットボトル等、1リットル未満の小型パッケージやシロップ等）や、IC需要の多いチャネル（例、自販機、コンビニ等）を指す。
OBPPC	Occasion（機会）、Brand（製品ブランド）、Package（パッケージ種類）、Price（価格）、Channel（販売チャネル） の頭文字をとったもので、消費の各機会に適した商品を提供するセグメンテーション戦略。
オペレーショナル エクセレンス	Operational Excellence：全世界共通のツールと考え方を使って持続的な業務改善を行い、経営上の重点課題に注力し、人材と生産性の高い企業文化を育成し、高い企業価値の実現につなげる、コカ・コーラシステム共通の仕組み。
RTM	Route-To-Market の略。営業部門が売上成長を実現するためのフレームワーク、プロセス、実行手段などを定義したもの。

THANK YOU

2015年度第1四半期 決算説明会
2015年5月12日

〈お問い合わせ先〉

コカ・コーライーストジャパン株式会社
IR部

ir@ccej.co.jp

03-5575-3797

<http://investor.ccej.co.jp/>

Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパン株式会社

www.ccej.co.jp

